

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（前期）
法律学科 出題意図

性的少数者と法または権利との関係について問う問題である。例えば、同性婚についての違憲判決や、性同一性障害特例法の手術要件が違憲であるという判例が出たばかりなので、ニュースなどで目にする機会があったり、トランスジェンダーのトイレの使用に関しても社会的な議論となっていたりと、近年、さまざまな観点から問題となっているため、メディア等で触れる機会も多かったと思われるし、いくつもの論点がある問題である。本学科のアドミッションポリシーとの関係から、ニュースや社会問題に日頃から親しんでいるか、適切に論述できるかなどを問うことを目的としている。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（後期）
法律学科 出題意図

今回の出題は、法律学科のアドミッション・ポリシーに適合する人物であるかどうかを判断することをねらいとしています。

本問は、これまでに一度は耳にしたことがあると思われる具体的な人権を題材とし、法律学科で学ぶために必要な基礎的知識を前提に、多様な意見を想定しながら、柔軟かつ論理的に説明する力を備えているかを問うものです。

他者の見解を整理する力だけでなく、自身の見解を自らの言葉で的確に表現し、説得的に展開する能力を備えているかどうかを判断します。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験 (前期)
地域行政学科 出題意図

今年度の小論文試験は、上記の本学科アドミッションポリシーのうち、とくに 1, 2 に関連する問題を扱っています。行政による教育への支援は、地域社会の安定と発展にとって欠かすことができないものです。家庭の経済的事情によらず、子どもたちが等しく学べる環境を整えるにはどうすればよいのかについて、民間や地域ボランティアとの連携も視野に入れて考察してもらうことを狙いとしています。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験 (後期) 地域行政学科 出題意図

今回の問題は、編入学をして地域行政学科で学ぶ学生として、地域行政学科のアドミッション・ポリシーの 2 「地域社会の抱える課題を発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考えることができること」に適するかどうかという点に基づき出題しています。

自分の地元の市町村という身近な地域社会の「市町村長の選挙での投票」の場面を想定し、地元の抱える問題・課題も踏まえて、投票したいと思える立候補者の「政策」を 3 つあげてその具体的な内容を説明してもらうことで、日頃から地元の市町村の現状や出来事に興味・関心を持ち、どのような問題・課題を抱えているのかを把握しているかどうか、さらにはその問題・課題の改善や解決のためには何が必要か、自分の持っている知識を活用して考えることができるのかを見ています。

そして、問題で設定された「投票する側」の立場から、できる限り具体的に、希望する 3 つの政策について論理的な文章として表現できるかどうかを見えています。

【その他特記事項 (評価のポイント・アドバイスなど)】

評価にあたっては、問題で設定している、投票したいと思う立候補者の政策を 3 つあげていること、その内容を(問題・課題の発見から、改善・解決するための策の提案まで)できるだけ具体的に説明していること、投票する側の立場からの記述となっていること、さらには地名や制度名等の関連用語をはじめ、正確かつ適切な言葉を用いて、論理展開に無理がなく文章表現ができていることを見えています。

日頃から、地元の市町村や沖縄はもちろん、国内外で起きている出来事には興味・関心を持ち、本や新聞(全国紙に加え地方紙も)、県や地元の市町村が作成する広報誌等、テレビやインターネット等媒体は問いませんので、ニュースに触れる習慣をつけると良いかと思えます。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学選抜試験 (前期)
経済学科 出題意図

米軍基地の存在は沖縄経済の阻害要因であり、その跡地利用は地域の将来を左右する極めて重要な課題です。本小論文の出題意図は、志願者が以下の資質を備えているかを問うことにあります。第一に、沖縄経済の重要課題である米軍基地跡地の利用に対し、強い関心を有しているか。第二に、諸問題の背景や因果関係を論理的かつ主体的に考察・理解しようとする姿勢、およびその基盤となる基礎学力を備えているか。そして第三に、将来的に経済学の専門知識を修得して課題解決に挑む意欲を持ち、卒業後は地域社会に貢献する志があるか。これらを総合的に評価することを目的としています。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験 (前期) 地域環境政策学科 出題意図

この小論文課題は、志願者が環境課題やその影響に対する関心と理解力、論理的思考、そして多層的な対策を構想する力をどの程度持っているのかを評価することを目的としています。

(1) 気候変動に関する科学的理解の確認

1. 問1では、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第6次評価報告書の図 (SPM1c) を読み取り、世代ごとの気温上昇の違いを科学的根拠に基づいて説明できるかを確認します。図には、1950年生まれ、1980年生まれ、2020年生まれの3世代が、どの程度の温暖化を生涯で経験するかが示されています。志願者には、図の内容を正確に読み取り、短い字数で要点をまとめる力 (読解力・要約力) が求められます。

(2) 気候変動の影響に関する理解

2. の問1と問2は、気候変動がもたらす具体的な悪影響、若者が火力発電事業者を裁判で訴えた意義について、社会的背景を踏まえて説明できるかを問うています。

ここでは、科学 (IPCC)、政策 (パリ協定等)、社会運動 (若者訴訟) といった複数の領域を関連づけて理解する力が求められます。

特に、若者訴訟の意義については、将来世代の権利、大規模排出源への法的責任追及、気候政策の遅れに対する市民のアクションなど、社会構造と環境問題の関係を論理的に説明できるかを評価します。

(3) 多層的な温暖化対策を構想する力

2. の問3では、公的機関、民間事業者・非営利団体、個人という3つのレベルに分けて、温室効果ガスの排出削減策を具体的に述べることを求めています。

この設問の狙いは次のとおりです。①気候変動の原因 (CO₂排出構造) を理解していますか。②対策を「政策」「技術」「教育」「生活行動」などの分野で多角的に考えることができますか。③現実的で持続可能な解決策を提示できますか。④600~800字で論理的な文章を構成できますか。

地域環境政策学科では、環境問題を単なる自然科学としてではなく、経済・社会・政策を横断する課題として捉える力を重視しています。本問は、そのようなアプローチに合致した志願者かどうかを判断するための重要な設問です。

これらの視点から、本学科のアドミッション・ポリシーの内容に志願者が合致しているのかを判断します。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

評価ポイントは、次のとおりです。①IPCC 報告書や気候訴訟の背景を正確に理解していますか。②気候変動の影響を具体的な事例で説明できますか。③公的機関、企業・非営利団体、個人の役割を区別し、現実的な対策を提示できますか。④因果関係を踏まえた論理的な文章構成ができていますか。⑤字数・表現・構成など、大学での学修に必要な文章力を備えていますか。

なお、以下の場合には、減点となります。①問題の説明が抽象的で、科学的根拠や社会的背景が不十分な場合。②解決策が表面的で、実現可能性や持続可能性に欠ける場合。③文字数不足、誤字脱字、論理構成の乱れ。

気候変動に関する課題については、新聞などのメディアで取り上げられることも多いです。他の環境問題と同様に新聞やテレビニュースなどからの情報について、意識的に関心を持つことが重要です。また、志願者自身が地域の現場に即した解決策を導き出すためには、世界や地域社会への理解と関心が不可欠です。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（後期）
地域環境政策学科 出題意図

本小論文は、地域環境政策学科で学ぶ上で重要と考えられる次の資質や能力を、受験者がどの程度備えているのかを確認することを目的としています。

1. 日常生活の中で、身近な経済や環境の動きに関心を持ち、地域が抱える経済的・環境的課題を理解していますか。(AP の 1、2、3 に関連)
2. その課題に対して、自分なりの視点から解決策を考え、適切に提示できますか。(AP の 1、2、3 に関連)
3. 出題の意図を正確に読み取り、他者に伝わる明瞭で論理的な文章として表現することが できますか。(AP の 4 に関連)

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（前期）

企業システム学科 出題意図

本設問は、企業システム学科アドミッション・ポリシーに掲げる人材像との適合度を、多面的かつ実務との接続性の観点から評価することを目的とする。新興国市場という不確実性の高い環境を前提に、課題の発見と解決策の立案、ならびに学修計画と将来キャリアの接続を、一貫した論理で記述できるかを測定する。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（後期） 企業システム学科 出題意図

本小論文は、近年多様な産業分野で注目を集めている「サブスクリプション型（定額制）ビジネスモデル」を素材とし、受験者の現代ビジネスへの理解力と論理的思考力、さらに自らの意見を構造的に表現する力を評価することを目的とする。

- ①サブスクリプション型モデルは、単なる料金制度の変化にとどまらず、企業と消費者との関係、価値提供の仕組み、顧客ロイヤルティ形成の方法など、経営戦略・マーケティング・消費者行動の各側面に大きな影響を及ぼしている。この構造変化に関して、受験者が理論的知識と具体的事例を関連づけながら、自分の視点で分析・考察できるかを確認する。
- ②サブスクリプション型モデルの限界やリスク要因に関して理解した上で、受験者がビジネスモデルの持続可能性や経営上の課題を批判的にとらえる姿勢を持っているかを測定する。
- ③総合的に、現代のビジネス環境における受験者の時事的関心・論理的構成力・批判的思考力・表現力を多面的に評価する。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（前期）
産業情報学科 出題意図

本試験は、志願者が産業情報学科のもとめる人物にあてはまるかを判断するねらいがあります。

今回の小論文の出題は、社会問題に対する関心の高さを問う内容となっており、新聞や SNS 等で米不足の原因が様々指摘される中で、志願者自身の考えを整理し、論理的に説明できるかを問う内容となっています。また、社会問題に関連づけながら学びたい内容を説明できるかを確認するねらいもあります。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験 (後期)

産業情報学科 出題意図

産業情報学科では、「情報」「経済」「語学」などの実学分野に幅広く興味・関心を持ち、それらを深く学ぶための基礎的な知識や学力を身につけた人、科学的・論理的に課題を捉えて解決しようとする人、そして大学生活で自ら進んで学びを深め、他者と協働しながらコミュニケーション力を高められる人を求めています。

このような人物像を踏まえ、本設問では、「沖縄県 DX 推進計画」を題材として、デジタルトランスフォーメーション (DX) が沖縄の観光分野にどのような変革をもたらし、新たな価値を創出するかについて考察することを求めています。沖縄の自然・歴史・文化といった特性や、離島地域、少子高齢化といった社会課題を踏まえながら、具体例を挙げて検討することを意図しています。

DX という概念やデジタル技術の活用を、観光サービスの高度化や地域資源の活用、観光体験の向上といった具体的な取り組みと結びつけて論じているかによって、情報技術への興味・理解度を評価することを想定しています。また、DX の推進が地域経済の活性化や産業構造の変革にどのように寄与するかを想像し、新たな価値やサービスの創出へと発展させる発想ができているかによって、ビジネス的視点や社会的な視野を評価することを想定しています。さらに、技術導入の利点だけでなく課題にも触れ、沖縄の特性を踏まえた現実的な提案を筋道立てて述べることで、論理的思考力と創造力、表現力を総合的に評価することを想定しています。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（前期・後期） 日本文化学科 出題意図

日本文化学科の編入試験では、アドミッション・ポリシーの1にある「言語・文学を中心とする日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーション」という3つの専門領域に関わる試験問題を毎年出題しています。今年度は、前期入試では、「言語学」をテーマとして「日本文化」や「コミュニケーション」にも関わりをもつ課題文を、後期入試では、「国語教育」と「文学」に関わりのある課題文を出題しました。アドミッション・ポリシーの3にある、「基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)」を身につけているかどうかを評価するための問題となっています。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験 (前期)
英米言語文化学科 出題意図

英米言語文化学科は、世界の人々と対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切に、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

次の英文は、気候変動がスポーツに及ぼす影響について述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（後期）

英米言語文化学科 出題意図

英米言語文化学科は、世界の人々と対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切に、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

次の英文は、オーバーツーリズム（観光公害）について述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（前期） 社会文化学科 出題意図

2026 年度編入学者選抜試験の小論文課題では、社会文化学科のアドミッション・ポリシーを満たすかどうかを判断する意図で出題しました。本学科には、沖縄の歴史・文化・社会を総合的に学ぶという特色があり、「沖縄を理解するための知的好奇心と知的探求心をもつ人物」（ポリシー 1）を選抜試験では求めています。

以上を受け、今回の小論文課題は、戦後 80 年という節目において社会的な関心が高まっていた「沖縄戦」というテーマについて、どの程度の基本的・歴史的な理解と問題関心を持ち、思考力を発揮して論述できているかを問う出題となっています。また、戦後の住民生活への影響を問うたのは、沖縄が米軍統治下に置かれた歴史や冷戦下の日本・アジアの戦後史とも関連づけて論じられる理解力・思考力を有するかをみるためのものです。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学選抜試験（後期）
社会文化学科 出題意図

沖縄の社会・文化に関わる事象やこの島々で発生した歴史的な出来事を、現代における人々の生活と関連させて考えることができているかどうかを問うため。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学試験（前期）

人間福祉学科社会福祉専攻 出題意図

今回の小論文試験問題は、社会福祉専攻のアカデミックポリシーの評価指標のうち以下の3点を有している人物か確認することを意図した出題となっています

- 3.国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か
- 4.社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か
- 5.社会福祉を科学的に学ぶ（他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する）ための基礎的学力を有する人物か

前期編入学試験では、多様性を尊重できる社会を構築する上で外国籍の人々との共生をどのように実現していったらいいのか意見を述べてもらいました。

具体的な設題を通して、同ポリシー「I.将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物」、「II.社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物」を確認することを意図しています。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（後期） 人間福祉学科社会福祉専攻 出題意図

今回の小論文試験問題は、社会福祉専攻のアカデミックポリシーの評価指標のうち以下の3点を有している人物か確認することを意図した出題となっています

- 3.国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か
- 4.社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か
- 5.社会福祉を科学的に学ぶ（他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する）ための基礎的学力を有する人物か

後期編入試験においても、前期編入試験同様、多様性を尊重できる社会を実現する上で選択的夫婦別姓制度をどのように捉えているか論じてもらいました。

多様性の尊重に関する具体的な設題を通して、同ポリシー「I.将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物」、「II.社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物」を確認することを意図しています。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（前期）
人間福祉学科心理カウンセリング専攻 出題意図

この小論文の出題テーマは、受験生が自らの経験を客観的に振り返り、アドミッション・ポリシーの1つ目である「こころと行動」や「人と人とのつながり」を科学的視点から理解しようとする姿勢を有しているかを確認することを目的としています。単なる体験談ではなく、心理学の概念や理論を用いて考察することを求めることで、人間理解への探究心と学問的関心を測っています。また、これまでの経験を大学での学びと結びつけ、心理学の知識や技術を将来のキャリア形成や日常生活に実践的に活かそうとする主体的かつ真摯な態度を備えているかというアドミッション・ポリシーの2つ目を総合的に評価することを意図しています。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学編入学者選抜試験（後期）

人間福祉学科心理カウンセリング専攻 出題意図

今回の小論文試験問題では、心理カウンセリング専攻のアドミッション・ポリシーの1.にある、心理学という学問が人間の「こころと行動」や「人と人とのつながり」について科学的視点から学ぶものであるということについて、どの程度理解を深められているかを評価しています。具体的には、心理学の研究手法についての基本的な知識を持ち、心理学の研究手法の限界について理解し、それを論理的な文章で説明できるかを評価していました。心理学という学問についての正しい理解が不足していると、自分が学びたい内容と、入学後に実際に学べる内容との間に大きなギャップが生じる可能性が高いため、このようなミスマッチを防ぐために、今回の問題を出題しました。